

JAMA NEWS

NO. 34

The Japanese Association of Management Accounting

日本管理会計学会 〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1 立命館大学経営学部 日本管理会計学会事務局

20年史編纂

青山学院大学 小倉 昇

日本管理会計学会(Japan Association of Management Accounting ; 以後 JAMA と略称する)は、1991年7月の創立総会から数えて2011年で20年を数えます。昨年(2011年)10月に関西大学を主催大学として開催された年次大会では、学会創設20周年を記念して、初代会長を務められた片岡洋一先生の記念講演も行われました。

この間、管理会計と周辺分野では、活動基準原価計算(ABC)、品質原価計算、環境コスト、ライフサイクルコスト、経済的付加価値、バランス・スコアカードなど、多くの新しい手法や概念が登場しました。また、管理会計に期待される課題も、国境を越えて広がるグループ経営の計画と評価、期間利益ではなく企業価値に結びつく意思決定、無形資産の評価や環境に対する影響の評価、さらに非営利組織の活動の管理など、従来の枠組みには収まらない問題の解決を期待されています。

これらの課題に応えるために、JAMAの大会で発表される研究報告や学会誌『管理会計学』に掲載される論文の内容も、単なる理論の解釈や背景の説明は数が少なくなり、フィールドワークや実証研究が主体を占めるようになってきました。

JAMAが成長してきた20年間は、上に述べたような管理会計研究の大きな変化の時代と重なっており、日本の管理会計学の発展にJAMAが果たしてきた役割は決して小さなものではありませんでした。とくに、片岡洋一先生に続く5人の学会長、西澤脩先生(1999~2002)、田中隆雄先生(2002~2005)、田中雅康先生(2005~2008)、辻正雄先生(2008~2011)、浅田孝幸先生(現学会長)のほか多くの役員がJAMAの活動を支え、ほかの社会科学分野の学会には類を見ない学会へと発展させてきました。

2009年4月にJAMAのホームページを新しく作り替えることになったときに、旧ホームページに掲載されていた情報が失われてしまうのはもったいないと、当時の役員が旧ホームページから記録を残すべき情報を取り出す作業を行いました。ちょうど同じころに、2011年のJAMA創設20周年に記念事業を行おうという計画が始

まり、それでは資料が散逸しないうちに20年間の学会の活動記録をまとめ「日本管理会計学会20年史」を発刊することが事業計画に組み込まれ、当時副会長であった小倉が編集の任に当たることになりました。

過去に発行されたJAMAニュース、全国大会のプログラムや報告要旨集、旧ホームページなどから情報を集めました。完全な活動記録の復元は困難でした。特に、1990年代の資料はすでに関係者に問い合わせても、現物を持っておられない場合が多いこともわかりました。活動記録の復元が困難であることの一因は、JAMAの活動の多様性にもあります。全国大会と学会誌の発行だけではなく、月例研究会、フォーラム、研修プログラム、リサーチセミナーなどの開催、研究部会や企業調査研究プロジェクトの設置、九州部会、関西中部部会の設立、管理会計学大事典や企業調査研究プロジェクトシリーズのモノグラフの発刊など、この20年間に新しいアイデアがどんどん実行されているのです。

これらの多彩な学会活動は、その時々で学会長がお持ちになっている管理会計学の研究に対する理想や学会員へのサービスを充実させたいという信念を反映したものですから、どれもが意義深く、可能な限り多くの情報を「20年史」に留めたいとの希望も強くありました。しかし、JAMAの多彩な活動を系統的に表現するのも難しいので、ここでは、印刷物として刊行された学会誌『管理会計学』、『管理会計学大辞典』、企業調査研究プロジェクトのモノグラフなど、すでに印刷物になっているものの紹介は敢えて除外し、全国大会、フォーラム、地方部会などの活動に絞り込んで記録を残すことにしました。それでも、1990年代に開催された全国大会やフォーラムの自由論題報告に関するデータには欠落が多かったので、自由論題報告の報告者氏名と報告論題は2001年度以降のものだけを掲載いたしました。

また、1999年から継続している企業研究会(企業を訪問して管理会計実務を学ぶ研究会)についてもここに掲載することはできませんでした。多くの学会員を受け入れ、

工場の案内や実際に動いている管理会計実務について説明の労を取って下さった企業の方には、感謝しています。IMA(米国管理会計協会)や APMAA(アジア太平洋管理会計学会)など海外の学会との提携事業、国際会議への会員派遣などの国際交流も重要な学会活動ですが、この「20年史」には掲載できませんでした。

以上のたくさんの言い訳からわかっていただけに、この「20年史」に収録した記録は JAMA の多様な学会活動の一部分にすぎません。しかし、初代学会長の片岡先生に執筆をお願いした巻頭言「日本管理会計学会の創設と進展」では、JAMA 創設の背景や目的を詳しく説明していただいております、資料の不足を補って余りある内容となっています。

古くから JAMA の活動に係ってこられた会員には、本刊のページを繰って管理会計の研究と教育に携わってこられた日々を思い出すきっかけにしたいことを期待しています。また、近年 JAMA に入会された会員には、多くの先輩が 10 年前、15 年前にどのような課題に取り組んでいたのかを知ることによって、世代間の理解と交流を進める一助としていただくことを祈ります。

最後に、JAMA が一層の発展を遂げることを願うとともに、10 年、20 年後に「30 年史」または「40 年史」を編集することがあるときには、「20 年史」が礎石となってより充実した JAMA の歴史が語られることを祈念しております。

2011 年度年次全国大会記

関西大学 北島 治

日本管理会計学会 2011 年度年次全国大会(大会準備委員長：水野一郎氏)は、2011 年 10 月 7 日(金)～9 日(日)の日程で、関西大学千里山キャンパスを会場として開催された。

統一論題は日本管理会計学会創立 20 周年を記念して「管理会計研究の現状と課題」というテーマが設定され、小倉昇氏(青山学院大学)を司会として、2 日目の午後に 3 名の会員の研究報告が、3 日目の午後に討論が行われた。

まず、研究報告に先立ち、司会の小倉氏から今回の統一論題のテーマ「管理会計研究の現状と課題」についての主旨説明があった。管理会計学会が創立した 1990 年代は、ABC や ABM、EVA やバランスト・スコアカード、原価企画の再評価など新しい話題が豊富であったが、最近ではマテリアル・フロー・コストイング以外あまり新しい話題がない状況にある。それゆえに 2010 年代は第 2 のレバンスロストの時代を迎えつつあるのかどうかを検討し、もしそうでなければ 1990 年代以降いろいろな方向に拡張した管理会計がどこに進もうとしているのかを会員の皆さんに考えてもらう場を提供するために、この統一論題のテーマを設定した旨を小倉氏は説明された。

第 1 報告は、伊藤和憲氏(専修大学)による「バランスト・スコアカードの現状と課題：インタンジブルズの管理」であった。

伊藤氏は、企業価値創造の重要な部分であるインタンジブルズの管理にバランスト・スコアカードはどのように利用できるのかという問題意識のもと、①人的資産、情報資産、組織資産からなるインタンジブルズの測定と

管理をいかにすべきか、②3 つのインタンジブルズは因果関係を持たせるべきなのか、それとも個別に検討すべきなのか、③市場創造するような戦略策定を支援するインタンジブルズの構築をどのようにすべきか、という問題提起をされた。伊藤氏は、学習と成長の視点に焦点を絞り、またインタンジブルズの管理と戦略の関係を戦略目標アプローチ、戦略実行アプローチ、戦略策定アプローチという 3 つのタイプに区分して、それぞれについて事例を紹介し、上記の問題提起の内容を説明された。

最終的なまとめとして、①人的資産には人的資産開発プログラムを用いたレディネス評価が効果的であり、これを応用したインタンジブルズ構築プログラムがインタンジブルズの管理に有効であること、②戦略目標アプローチ、戦略実行アプローチ、戦略策定アプローチの 3 つのアプローチごとに対応するインタンジブルズの管理が異なること、③インタンジブルズの人的資産、情報資産、組織資産は、それぞれに個別に管理するのではなく、因果関係を持たせて管理する必要があること、を示された。

第 2 報告は、窪田祐一氏(大阪府立大学)による「組織間コストマネジメント研究の展開」であった。

窪田氏は、約 20 年が経過してきた組織間コストマネジメントに関連する国内外の先行研究をレビューし、組織間コストマネジメントの研究の展望のひとつとして、製品開発(原価企画)中心の組織間コストマネジメントからサプライチェーン(ビジネスモデル)全体の組織間コストマネジメントへと研究対象を拡大する必要があることを提示された。また、グローバル化によるサプライチャー

ンの変化、サプライチェーンの複雑化、サプライヤー管理の変化といった日本企業のサプライチェーンの変化を踏まえ、サプライチェーンの競争力を構築・維持するには、組織間コストマネジメントを有効に機能させる必要があり、そのためには組織間コストマネジメントを戦略的コストマネジメントとして、パートナー選定プロセスを中心とした構造的コストマネジメント、並びに業績評価とマネジメント・プロセスの遂行的コストマネジメントという 2 側面からの研究課題の解明が求められると主張され、この点が 2 つめの研究の展望として提示された。

第 3 報告は、藤野雅史氏(日本大学)による「行政経営改革は管理会計研究に何をもたらしたのか」であった。

藤野氏は、公的部門の管理会計研究として、公的部門における近年の行政経営改革の中で登場してきた業績管理と予算編成がリンクされる業績予算を取り上げられ、業績予算には、アウトカム(業績)によって資源配分を決定できず、予算編成の単位と業績測定の単位に不整合があるなどの問題点があるにもかかわらず、業績予算がなぜ推進されてきたのか、また業績予算は行政経営改革の中でどのように機能するのかについて報告された。事例として、日本における業績管理と予算編成のリンクが初めて行われた第 1 次小泉内閣当時の予算制度改革、および民主党への政権交代後の予算制度改革が紹介された。この 2 つの予算制度改革の分析を通して、第 1 に、小泉内閣当時の諮問会議を設置したトップダウンの意思決定

による予算編成や政権交代後の予算編成プロセスの公開といった予算制度改革が意図せざる結果として予算編成にかかわるプレーヤの分散化を生みだし、しかもシステムの整備自体が目的化したこと、第 2 に、業績予算と予算編成のリンクは官僚制多元主義のもとで整備されると同時にそれを強化していき、予算編成プロセスへの内閣や与党議員の直接介入など政治的アカウンタビリティを高めるために動員されたこと、を示された。

これらの報告を受けて、3 日目の午後に統一論題の討論が行われた。討論に先立ち、コメンテーターの河田信氏(名城大学)から、管理会計をツールとしての管理会計とマネジメントのしくみ作りとしての管理会計に大別すると、20 世紀に多かったのはツールとしての管理会計であるが、21 世紀に有効性を持つのはしくみ作りとしての管理会計である点が強調され、3 つの報告はしくみ作りという視点からの報告であったとコメントされた。

討論では、戦略の定義の確認、バランス・スコアカードとマネジメントの関係、業績予算の定義の確認や日本で業績予算は行われているか、などについて質疑応答があった。

最後に、司会の小倉氏は、河田氏が提起されたツールとしての管理会計としくみ作りとしての管理会計の視点から、今回の統一論題の報告と討論が会員の皆さんに今後の管理会計研究の発展を考えてもらう「引き金」になったのであれば幸いであるとまとめられた。

2012年度年次全国大会 開催校決まる！

2012年度年次全国大会が次のとおり決定いたしました。なお、詳細については追ってお知らせいたします。

- 開催校：国士舘大学
- 日程：2012年8月24日(金)～2012年8月26日(日)

学会賞決定！

特別賞、功績賞の審査委員会の審議の結果を受けて、2011年7月16日開催の常務理事会において、功績賞3名が決定しました。2011年度会員総会の中で受賞式が行なわれ、浅田孝幸会長より賞状とたてが贈呈されました。おめでとうございます。

《功績賞》

青木茂男氏(茨城キリスト教大学) 古賀勉氏(福岡大学) 坂口博氏(城西大学)

論文賞、文献賞および奨励賞の審査委員会の審議の結果を受けて、2011年10月7日開催の常務理事会において、本年度の文献賞および奨励賞が次の3氏に決まりました。2011年度会員総会の中で受賞式が行なわれ、浅田孝幸会長より賞

状と金一封が贈呈されました。おめでとうございます。

≪文献賞≫

櫻井通晴氏(城西国際大学)

『コーポレート・レピュテーションの測定と管理

—「企業の評判管理」の理論とケース・スタディー』同文館出版, 2011年。

≪奨励賞≫

呉 重和氏(大阪大学大学院)

「報酬契約における非財務指標の役割」『管理会計学』第19巻第1号, 2011年3月, 35～56ページ。

山口朋泰氏(東北学院大学)

「実体的裁量行動の要因に関する実証分析」『管理会計学』第19巻第1号, 2011年3月, 57～76ページ。

学会誌への投稿募集

学会誌編集委員長 早稲田大学 佐藤紘光

本学会誌『管理会計学』は、会計および経営の諸領域における理論ならびに方法論の発展とその普及を主な目的として刊行されています。投稿論文は、実証研究に限らず、理論研究、事例研究、総合研究、学際的研究など幅広く受け付けております。会員であれば、どなたでも投稿できますので、学会誌投稿規程と学会誌執筆要領に沿って執筆・投稿ください。皆様のご投稿をお待ちしております。

2012年度第1回国際学会参加費の助成について

会員の国際的活動を支援する一環として、国際学会参加費の助成申請を受け付けております。助成対象となるのは、管理会計に関連する海外の学会(2012年5月31日から2012年8月31日の間に開催される学会)において、研究発表をする場合または当該学会と本学会との交流を促進するため活動を行う場合です。

応募締切は、2012年3月31日(必着)となっております。詳しくは、学会ホームページを参照してください。

新入会員の紹介

● 正会員(敬称略)

4名入会

● 準会員(敬称略)

4名入会

※JAMA NEWS No.33以降, 2月15日現在

日本管理会計学会広報 責任者 : 伊藤和憲

メンバー : 小倉 昇, 尾畑 裕, 河合 久, 崎 章浩, 白銀良三, 岩田弘尚

発行機関 : 日本管理会計学会

≪本部事務局≫ 〒525-8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1 立命館大学経営学部 日本管理会計学会事務局

E-mail : jama-info@sitejama.org

<http://www.sitejama.org/>